

月刊

書字文化

～ 日本書字文化協会機関紙 ～

No.31 平成27年6月号

毎月10日発行

一般社団法人日本書字文化協会
代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 東京都中野区中野2-13-26 第一岡ビル3階

電話03-6304-8212/FAX03-6304-8213

Eメールinfo@syobunkyo.org

ホームページ<http://www.syobunkyo.org>

目次

第1回臨書展優秀作品展特集	5-8
「成績にこだわり、結果にこだわらない」書文協理念発表	2
第4回総合展統一テーマは「豊かな自然に生きる」	2
中筆に挑戦、北山幼稚園	3
就学前幼児の手書き指導に関する社会貢献事業について	4
第1回臨書展 主催者ごあいさつ	6
入賞者	7
大賞、招待作品写真	8
コラム 「こころ」(大平恵理) 「きのう 今日 あす」(渡邊啓子・副会長) 「教学半」(池田圭子・教学参与) 「文鎮」(佐藤貴子・指導主任)	
は休みました。	

「成績にこだわり、結果にこだわらない」

書文協学びの姿勢を徹底

書文協附属の「書写書道専修学院」では、新年度の保護者会（4月11日）、中野教室お楽しみ会（5月23日）を相次いで開催し、標記理念を書文協の学習理念として徹底することを発表しました。

保護者会では「学びのモチベーションが上がる」など好評でした。お楽しみ会で、検定合格現在証、大会成績表などを手渡された子どもたちは「もっと頑張れ」とハッパをかけられる一方、成績、賞にこだわらず、次に進むことの大事さを教え込まれました。

子どもたちは実社会で、厳しい評価にさらされます。書文協は、評価団体として運営が公共的であることを不可欠としていますが、子どもたちに、評価におごらず、めげずに進んでいくことの大切さを教え込むことも大事だと思っています。人と比べる相対の世界にとらわれるのではなく「成績にはこだわるが、その時々結果には一喜一憂しない」人に育てて欲しい、と思います。それが「継続する力」というポテンシャルティ（潜在力）を高める道で、このポテンシャルティは、昨今の大学入試でも評価のポイントとして極めて重視されています。検定合格現在証などと共に、年間スケジュール表なども配布しています。保護者の方は遠慮なく書文協本部にお問い合わせください。

第4回学生書写書道総合展

指定課題の統一テーマは「豊かな自然に生きる」

第4回総合大会（主催 書文協、文字・活字文化推進機構、後援＝予定 文部科学省、小中高校長会、全日本書写書道教育研究会）の統一課題は「豊かな自然に生きる」です。最近、口永良部島の噴火や各地の豪雨などが目立ちますが、自然に息づく日本で生きることを誇りをもって受け止めようとの趣旨です。

実施要項、団体応募の手引きなど発送

実施要項、団体応募の手引きなど3つのコンクール（ひらがな・かきかたコンクール、学生書写書道展、全国稿筆コンクール）に関する文書は、5月10日ごろ、出品したことのある全国の学校、教場、個人中心に一斉に発送されました。ご要望の方は、書文協本部大会事務局にご連絡下さい。

課題・手本 ホームページの利用も

各指定課題はホームページに6月10日前後、次いで参考手本もアップの予定なのでご利用ください。

北山幼稚園毛筆プロジェクト

北山幼稚園（山縣迪子園長、東京都府中市西原町3-3-4年）の年長児103人（うち女兒52人）の正課授業で行われている毛筆一斉指導は5月12、19日に3、4回目授業が行われました。園児を6班（平均17人）に分け、各班20分ずつ指導する方法は毎回同じです。基本的に月2回授業を行い、12月まで続けられ、来年3月19日に作品展が開かれます。書文協は社会貢献事業としてこのプロジェクトに協力することにしており、授業は池田圭子・書文協教学参与が担当。全日本書写書道教育研究会理事長、長野秀章・東京学芸大学名誉教授（元文部科学省教科調査官）のアドバイスを得ながら指導を進めます。次のページに「就学前幼児の手書き指導に関する社会貢献事業」文書を掲載しました。

中筆「恵風5号」で水書

「恵風5号」は書文協ブランドの中筆で、長さが約25センチあります。園児らの手になじむか心配されましたが、おおむね大丈夫、との結論を得ました。4月の最初の2回は、関西の業者が開発された「えんぴつ筆」を用いて、園児らに筆になじんでもらいました。えんぴつ筆は、えんぴつと同じ太さであり、幼児が最初に握る筆として適しています。

水書きは現在注目されており、マットに水で書くと、文字が浮かび上がります。多人数で筆の一斉指導をする際には、環境保持の面で有効ですが、水が乾くと消えるのは当然で、園児の文字書きに対する興味・関心を維持するには制約がありそうな気がします。北山幼稚園では7月まで水書きを行い、夏休み明けから墨汁を使った文字書きを始めます。



5月の授業も、正しい姿勢の取り方、筆の持ち方から始めました。座った時に、お腹と背中にグーの握りこぶしを一つ入れることを覚えた園児も多く、どの班とも一人がそれをやると全員がまねてやっていました。

筆の2本はさみの園児も

園児らは右親指の爪と、人差し指の第2関節の腹に赤丸シールを貼って、中筆を持ちました。「人差し指の赤丸が隠れてはいけません」と先生の注意。その注意以上に、人差し指の先が筆の向こうに隠れてしまう形で筆をつまむ園児が何人かいました。これは箸を持たないことにも通じ、行き過ぎると、握り筆、箸となってしまいます。最後に「つ」など文字を書いてもらいましたが、とても上手に書く園児もいました。

就学前幼児の手書き指導に関する社会貢献事業について

一般社団法人日本書字文化協会

代表理事・会長 大平 恵理

私どもは、書写書道の指導法、テキスト、書具の研究開発を中心に検定、大会、講習会開催などに取り組んでいる非営利の民間団体です。文部科学省の学習指導要領に準拠し、園・学校教育と連係して活動を進め、書写書道を生涯学習とする民間の受け皿作りを活動理念としています。

以下、当協会が学校法人山縣学園・北山幼稚園（東京都府中市西原町3）で進める標記事業について説明いたします。

1、経緯

山縣迪子・同園長より、日本の伝統文化に触れさせたいので、毛筆の一斉指導を正課授業に取り入れたい、と相談がありました。これについて当協会中央審査委員である全日本書写書道教育研究会理事長、長野秀章・東京学芸大学名誉教授（元文部科学省教科調査官）より、同教授ら全書研の先生方の指導の下、社会貢献事業として取り組むよう指導があり、当協会としては教学参与、池田圭子を講師として同幼稚園に派遣して取り組むこととしました。同園では、「ペンシリア・えんぴつの国」がすでに硬筆指導をおこなっており、これとタイアップして取り組みます。園児は体験(遊び)を通して興味、関心を広げるという幼稚園教育要領の精神に基づいた指導とします。

2、実施計画

27年4月より12月まで、原則月2回（1回120分）の授業を行い、27年末に毛筆作品展を開催します。一人一点、何らかの文字を書いてもらいます。

まず、筆記具には、えんぴつなど硬筆と毛筆があることを園児たちに理解してもらいます。次いで、えんぴつと毛筆のつながりをスムーズにすることを目的とした「えんぴつ筆」による水書を2回、実際に墨書きに使う当協会開発の中筆「恵風3号」を使った水書を2回行い、筆に慣れさせます。

水書きは7月まで続け、最終的には墨書となりなすが、墨汁用ポットなどの用具、園児の汚し具合なども含め課題の研究を進めます。名前書き指導は行いません。毛筆による手書き指導によって、園児たちの文字への興味、関心がどのように高まっていくかも研究のポイントです。

3、実施方法

同園はフリースペースの園舎で、毛筆指導スペースを設けて授業を行います。年長園児105人（うち女児53人）を6班（平均17人）に分けて20分ずつ指導、その間、他の子供たちは別の授業を受けながら待機します。

第1回臨書展優秀作品展開く

第1回臨書展（一般社団法人日本書字文化協会主催、青梅市日本中国友好協会、中国書法学院、蘇州・寒山寺、中国国立南京芸術学院、蘇州呉昌碩研究会後援）の優秀作品展は6月9日から14日まで、澤乃井ガーデンギャラリー（東京都青梅市沢井2-770）で開催され、大賞など優秀作20点と中国からの招待作1点が掲示されました。

第1回臨書展は中国蘇州・寒山寺の石碑に彫られた漢詩「楓橋夜泊」（詩作・張継）の碑文を題材に、臨書の部と楷書の部について平成26年9月1日から27年3月31日まで公募され、701点（うち臨書の部250点）が寄せられました。井上孤城・書文協中央審査委員会常任顧問を審査代表に、厳正な審査の結果、配列、字形、線の良さなどの観点から、下記20人の作品が入賞しました。学校名・学年はいずれも平成26年度当時です。

第2回臨書展実施要項は9月1日、発表の予定です。

月落烏啼霜滿天

江楓漁火對愁眠

姑蘇城外寒山寺

夜半鐘聲到客船



第1回臨書展 主催者ごあいさつ

書の学びの基本として



一般社団法人日本書字文化協会
代表理事・会長 大平 恵理

臨書は、一般的には中国の古典の優れた筆跡の書を手本にします。日本の古典を書くことも含まれ、高校の書道で学びます。

小中学校の書写が国語教科なのに比べ、高校書道は芸術教科に含まれます。ですから、小中学生にとって、臨書は学習指導要領を超える部分があるのですが、書の歴史、広がりに触れる機会としていただくため、出品に年齢制限は設けませんでした。その代り、今回の題材、漢詩「楓橋夜泊（ふうきゅうやはく）」に出てくる漢字の中で10文字を、教育漢字に置き換えた部を設け、私が手本書きをしました。

臨書の手本は、文章の作者だけでなく、それを書いた書家、石碑などに刻んだ彫り師の手が加わることが一般的です。また、現在の日本では使われていないケースもあり、今回も臨書原本の「鐘」と言う文字のくずしが不確実、という指摘もございますが、原題材のまま出題していますのでご了承ください。

日中友好の津梁になれば



臨書展実行委員長
渡邊 啓子（書文協副会長）

津梁（しんりょう）というのは渡し場（津）、橋（梁）の意味です。仏教用語で人を導く手引き、という意味があります。臨書展発祥の舞台となった青梅市沢井が、隠れた日中友好の場であるということ、臨書展が日中の懸け橋になればとの思いを込めて、あえて津梁という言葉を使わせていただきました。

多摩川が深い緑色の上流となる沢井の地に、鶉の瀬溪谷があります。明治中ごろ、その右岸に「日本寒山寺」が中国蘇州・寒山寺の要請により地元有志らの手で建立されました。七言絶句「楓橋夜泊」の石碑も鐘と共に蘇州寒山寺と同じものが建てられました。

書文協の依頼により蘇州寒山寺の現住職と会談した蘇州市政府の対外部門の責任者によると、現住職もすでに2度ほど日本寒山寺を訪れたことがあり、臨書展を応援したい、ということでした。日中二国間の緊張は高いものがありますが、同文の国民として民間交流は深めていきたいと思っております。

第1回臨書展入賞者

大賞

青柳響子 東京 大東文化大学 3年

日本書字文化協会会長賞

下山晴生 東京 立教大学 3年

青梅市日本中国友好協会会長賞

樋口友紀 東京学芸大学 1年

優秀賞（臨書の部）＝順不同

新子由希子 大阪府吹田市 一般
植田惇平 大阪府吹田市立千里第一小学校 6年
大本啓子 東京都青梅市 一般
来田美佐子 東京 学習院大学 2年
山本恵子 大阪府 一般
富樫正義 神奈川県横浜市 一般

優秀賞（楷書書写の部）＝順不同

大平知雅 東京都中野区立江古田小学校 6年
鮫島世玲菜 東京 光塩女子学院初等科 5年
川崎木乃葉 東京都青梅市立第七中学校 3年
近藤乃愛 秋田県五城目町立五城目小学校 6年
竹内茉永 東京都羽村市立羽村第一中学校 1年
飯田桃子 福岡県福津市立津屋崎小学校 3年
池田萌華 神奈川 横浜雙葉小学校 6年
植田慎二郎 大阪府吹田市立千里第一小学校 2年
網代汐里 東京 光塩女子学院初等科 5年
新納愛梨 東京都豊島区立さくら小学校 1年
高橋 舞 大阪府 私立 大阪府私立マーヤ敬愛保育園 年長

第1回臨書展優秀作品展特集 (5-8頁)

大賞・招待作品

右は大賞（青柳響子さんの作品）、左は招待作品（中国・蘇州市在住、東京学芸大学に留学していたことのある琴劍樓藝術院藝術總監、朱剛さんの作品）

